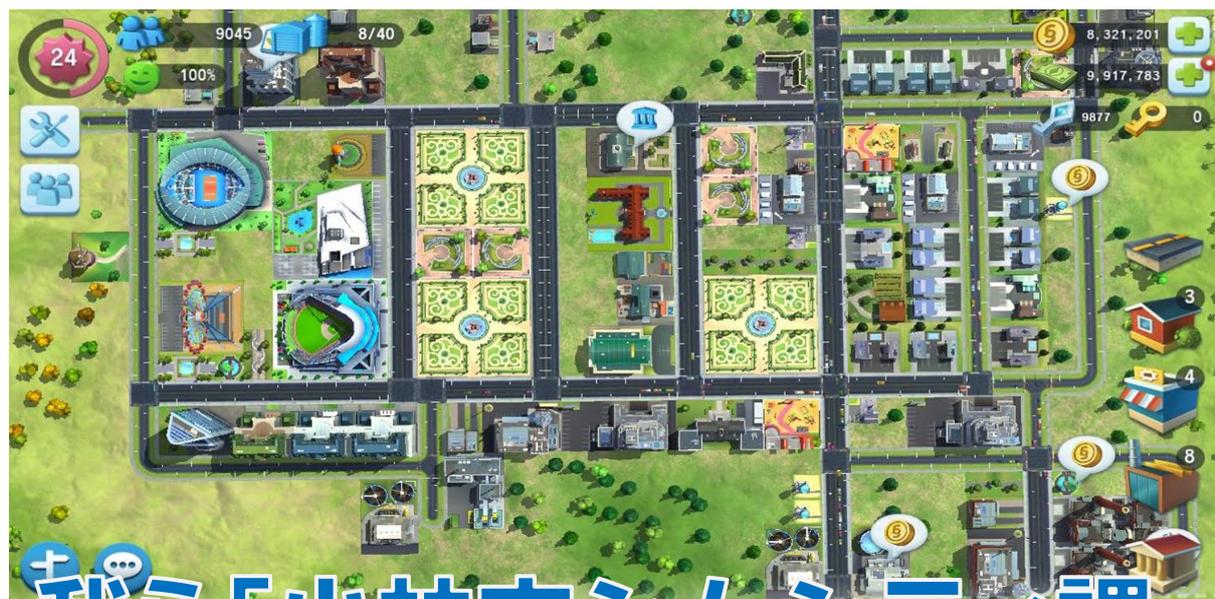


福知山公立大学2019地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」



# 我ら「小林市シムシティ課」

## スマホアプリでまちづくりに挑戦!



## 宮崎県立小林秀峰高等学校

商業科・経営情報科 課題研究 調査研究班

【発表者】 大牟田 夏子 小野塚 盟 川原 春美月 石井 優美  
 大久保 未裕 高佐 磨衣 束田 明日香 西平 茂樹  
 野口 理菜 古園 知美 松山 佳聖

【指導者】 瀧口 尚志 松澤 総子 基本 晃一 別府 妙香



小林市  
シムシティ課  
KOBAYASHI CITY  
DEPARTMENT OF  
SIMCITY BUILDIT





# 目次

はじめに	2
第1章 現状分析と活動開始までの流れ	3
1-1 環境分析（小林市について理解を深める）	3
1-2 今年度の取り組みについての検討	5
1-3 共感から始まる活動（Plan）	6
1-4 ミーティングの実施	7
1-5 仮説の設定	7
第2章 実践	8
2-1 使われなくなった「ビニール傘」の新用途開発?!	8
2-2 小林市の職員に、そしてキャストに!	9
2-3 まちづくり検討会の実施	10
2-4 まちづくりタウンミーティングの開催	16
2-5 アイデアをカタチに	20
第3章 検証と課題	22
第4章 今後の展望	25
第5章 終わりに	26





## はじめに

### これまでの取り組みと本年度の活動に向けて

平成30年4月、私たちが在籍している「宮崎県立小林秀峰高等学校」は創立10周年を迎えました。農業・工業・商業・福祉の4学科からなる宮崎県初の『総合制専門高校』として、この10年間、地域と共に歩み、そして多くの方々に支えられ、各学科ともに大きな成果を挙げることができました。

そのなかで私たち商業科・経営情報科の課題研究「調査研究班」は、昨年度、目標としてきた「全国高等学校生徒商業研究発表大会」に初めて出場する機会を頂き、全国の舞台上でこれまでの先輩方の思いを胸に発表することができました。

そして、本コンテストにも2013年から応募させて頂いており、昨年度は2回目の”最優秀賞”を受賞することができました。

このように、私たちの活動は、全国の多くの皆様に共感して頂き、そして応援してもらっていることを実感しています。

年度	研究発表の内容
2015年度	フリーペーパー「みちくさ」との連携
2016年度	Web CM「“山奥”篇」の制作
2017年度	Web CM「サバイバル下校」の制作
2018年度	PRミュージック「田舎女子高生」の制作



2018 田舎力甲子園 受賞式

なかでもここ数年は、Web上での効果的な情報発信の研究を継続して行ってきました。2016年度と2017年度の2年間は、小林市と連携してWeb CMの企画・制作に携わり、活動を通して「Web上で“バズ”らせる<sup>(\*)</sup>ことへの仕掛けについて」学び、2018年度には何度も見てもらうために、動画に「音楽」を融合させた“ミュージックビデオ”の企画・制作に取り組み、全国放送の情報番組や音楽番組などで取り上げて頂き、話題を集めることに成功しました。

(\*) 「バズる」は、ツイッターやフェイスブックなどのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)やブログなどを通じて、特定の話題が一気に拡散し、各方面で話題になる事を意味する新語。

次の取り組みについて、検討会の準備に入ろうかとしていたそのとき、私たちの活動を応援してくださっている方の一人から、次のようなご意見を頂きました。

**「みなさんの頑張りは大変素晴らしいが、もっと、**

**地元を観察しながら、まちに根ざした活動をして欲しい。」**

活動の成果に満足し、少し根拠のない自信を持っていた私たち。地域をPRすることはとても大切なことですが、私たち高校生が地域のためにできること、やるべきことはもっと他にあるのではないかということを感じました。





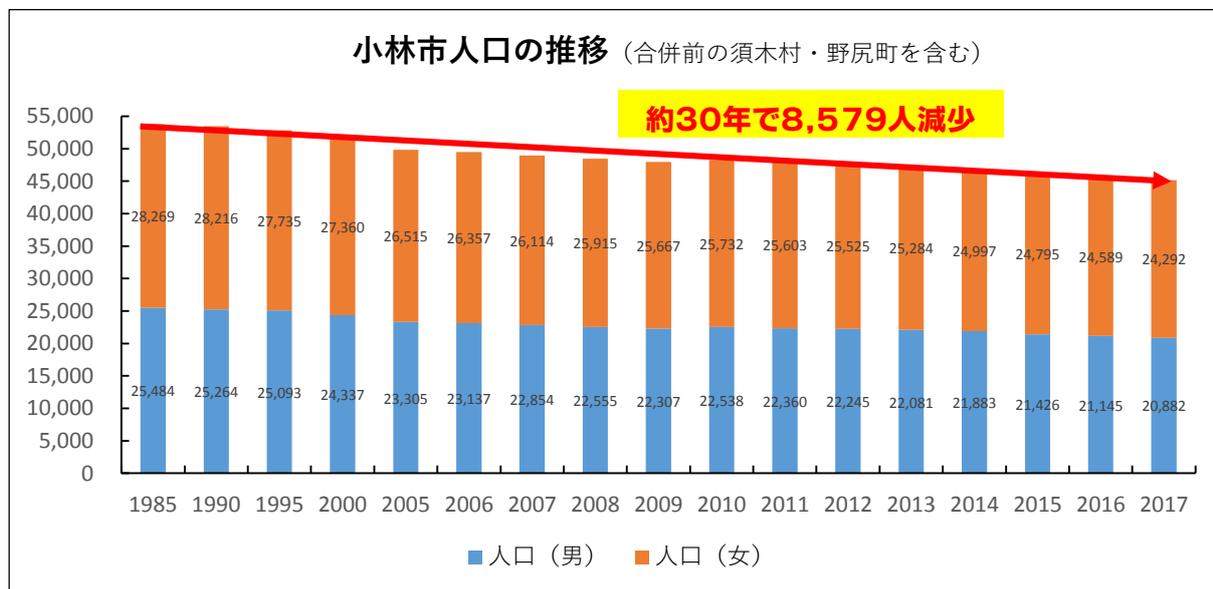
# 第1章 現状分析と活動開始までの流れ

## 1-1 環境分析（小林市について理解を深める）

本校がある小林市は、宮崎県の南西部に位置し、小林、須木、野尻の3つのエリアがあります。市の南西部には霧島連山、北部には九州山地の山々が連なり、山から潤沢に湧き出る「水」、その湧水池である出の山公園では、初夏を迎える時期、数万匹のゲンジボタルが飛び交います。その湧水を利用して行われるのが農業。メロン・梨・ぶどう・ゆず・栗・マンゴー。国内でも屈指の質を誇る宮崎牛。高級食材「キャビア」を生み出すチョウザメなど、小林の豊かな大地は、私たちにその恵みを余すところなく、届けてくれる、まさに「自然と人々が共存するまち」です。



そこでまず、小林市について既存資料を用いて分析を行いました。はじめに小林市の人口の推移を分析してみました。



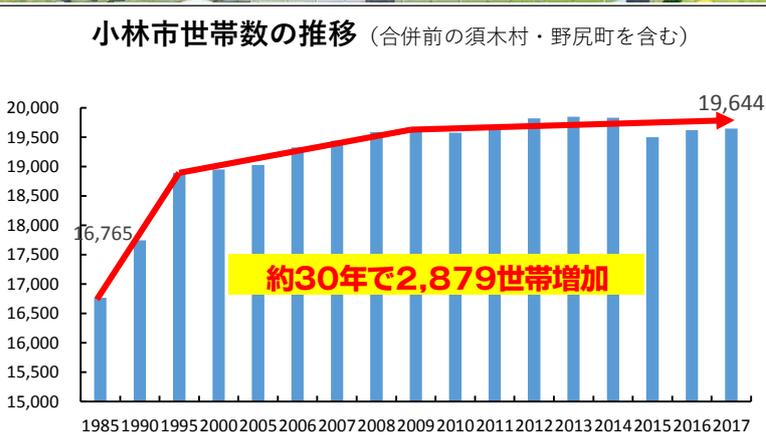
1985年（昭和60年）に旧小林市・旧須木村・旧野尻町の人口総数は53,753人でしたが、2017年（平成29年）には45,174人と、約10,000人弱の人口減少となっています。

総務省統計局の人口推計資料（平成28年10月1日現在）によると、**わが国の人口減少率は前年比約0.13%**。**小林市の2016年（平成28年）の人口減少率は前年比約1.05%**ということから、**全国平均を上回る速さで、人口減少が進んでいる**ことがわかります。次に、世帯数を調べてみました。**1985年（昭和60年）の旧小林市・旧須木**

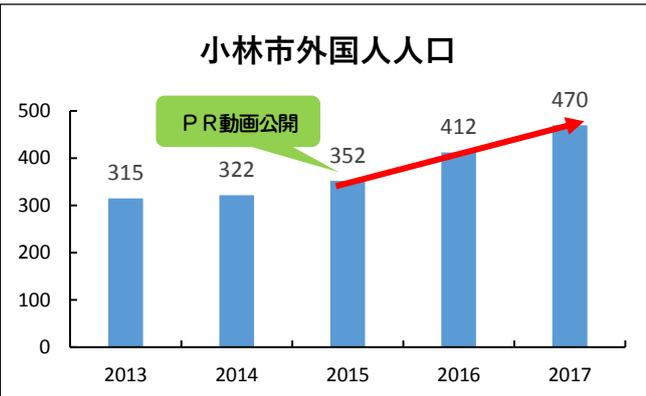




村・旧野尻町の世帯数は16,765世帯であったのに対し、2017年(平成29年)には19,644世帯と、人口とは逆に世帯数は増加しています。



人口と世帯数から、一世帯当たりの人口(家族数)を計算してみると、1985年(昭和60年)は約3.2人であったのに対し、2017年(平成29年)には約2.3人と、一世帯当たり約一人が減ったこととなります。小林においても核世帯化が進行していることがこのことから分かります。



注目すべきは、右の「外国人人口」です。2015年(平成27年)までは、おおよそ300人前後でその数が推移していましたが、移住促進PR動画「んだもしたん」の公開後、毎年60人前後増加し続け、現在470人と500人に迫る勢いで増加しています。

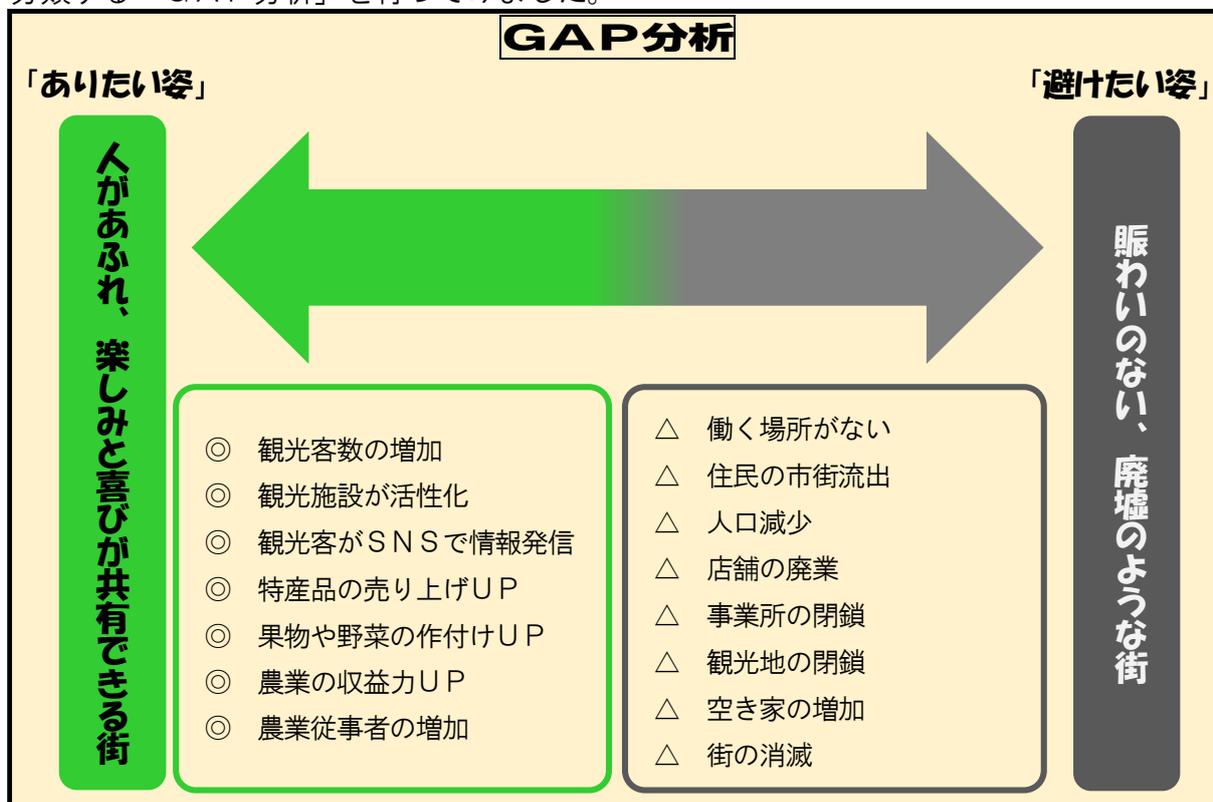
既存資料を用いた分析と同時に、SWOT分析も行いました。内部環境については「VRIO分析」、外部環境については「ファイブフォース分析」を用いて抽出しました。

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<b>Strength</b> [強み] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巧みな情報発信 (PR動画・SNS) で大成功</li> <li>・ ふるさと納税制度において成功している (小中学生への医療費・給食費助成の拡大)</li> <li>・ 食べ物が豊富 (食糧自給率が高い)</li> <li>・ 方言 (西諸弁) を生かした取り組みの成功</li> <li>・ 人情味ある人柄</li> <li>・ 観光資源が豊富 (霧島連山・水・食)</li> <li>・ 市民活動の活性化</li> </ul>	<b>Weakness</b> [弱み] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通機関の整備が不十分</li> <li>・ 宿泊施設が少ない</li> <li>・ 人口減少と人口流出</li> <li>・ 核世帯化が進んでいる</li> <li>・ 遊ぶところが少ない</li> <li>・ 街に人がいない</li> <li>・ 農業従事者の減少</li> </ul>
	外部環境	<b>Opportunity</b> [機会] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の地方創生政策</li> <li>・ 移住者の増加と市民活動における活躍</li> <li>・ 地方創生の取り組みへの高い認知度</li> <li>・ 外国人の増加</li> <li>・ インバウンドの拡大</li> <li>・ 情報化の進展 (情報発信の機会の増加)</li> </ul>





SWOT分析の結果、他の地方自治体と同様、人口減少や少子高齢化に伴う労働人口の減少が目にとまります。そのような中、小林市の魅力は何と言っても「豊かな自然や食」であることが分かりました。これらの分析結果を、更に上手に活用するため、野村総合研究所の官民連携担当部長／上席コンサルタントの名取雅彦様がWeb上で公開されている「まちづくりのためのフレームワーク入門」を参考に、「ありたい姿」と「避けたい姿」に分類する「GAP分析」を行ってみました。



## 1-2 今年度の取り組みについての検討

「ありたい姿」の小林市に向かって、私たちができることを考えます。ここ数年、小林市はハード面において、小林市庁舎と小林駅（KITTO小林）、TENAMUビルの3つの建物がデザインを統一した形で建設され、少しずつではありますが、中心市街地も整備されてきました。また、ソフト面においても私たちがこれまでも連携させて頂いている「てなんど小林プロジェクト」や市民団体「西諸県軍」そして、市民や企業、行政や各種団体の共同出資からなる「小林まちづくり株式会社」。コワーキングスペース「TENOSSE」など、地域コミュニティの活動が活発になってきています。そこで私たちは、これらの施設や活動と連携して、将来の小林のまちづくりに参画できないかと考え、これまでの私たちの活動をご支援くださっている小林市役所地方創生課に問い合わせしてみました。





「今、本市には全国様々なところから問い合わせがきています。

**今すぐ紹介できる状況にありません。申し訳ありません。」**

私たちの活動が、思いもよらないところで **STOP** してしまいました。

### 1-3 共感から始まる活動 (Plan)

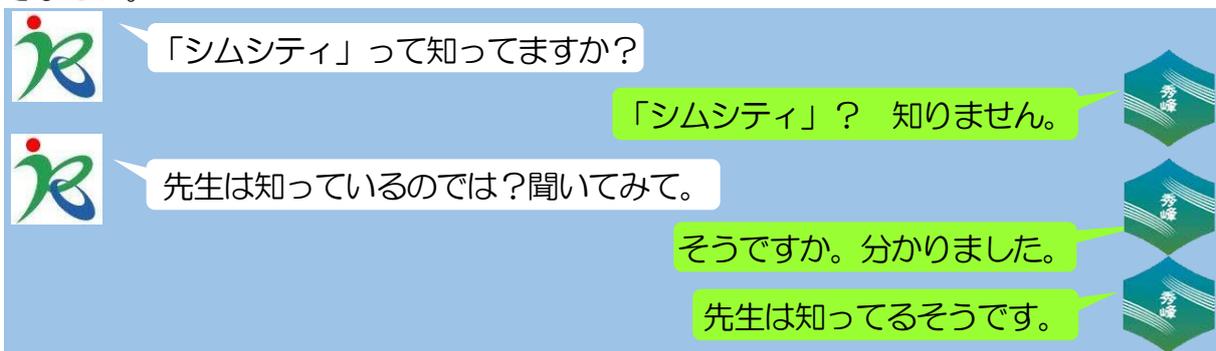
P D C A サイクルに則り、今年度の活動計画を立てることにしました。

#### 《活動計画》

- 1 これまでの「情報発信」に関する研究は継続すること。
- 2 創造とは何か、想像しながら活動に取り組むこと。
- 3 重要業績評価指数 (K P I) の設定が容易であること。

例えば、2017年度から小林で開催されている「こばやしマルシェ」に高校生として出店、あるいはステージイベントの企画・運営をさせてもらい、集客人数や各店舗の売上を前回開催時との比較で検証するなど、より具体的な比較ができる活動を行い、数値データで客観的な評価ができるよう工夫してみてもどうかというような意見ができました。

早速、「こばやしマルシェ」の企画・運営を行っている地域おこし協力隊の方と交渉を…と思っていた矢先、宮原小林市長も、星衛校長先生も驚く、ビッグニュースが飛び込んできました。



昨年の夏の出来事です。話によると、アメリカに本社を置くエレクトロニック・アーツ株式会社が、自社のスマートフォン用アプリケーション『SIMCITY BUILDIT』を用いた社会貢献活動の一環として、これまで様々なアイデアを盛り込んだプロモーション活動を行っている小林市と小林秀峰高校に協力してもらえないかとオファーが来ているとのことでした。









これらのキャッチコピーは、どれも“商品そのもの”に触れていません。商品について強調・主張するだけでは人を引きつけられないことを学びました。さらに“脳トレ”が続きます。

## 2. 「消しゴム」のキャッチコピーを考えよう

普段、私たちが使わない日はないであろう「消しゴム」のキャッチコピー。誰もがその用途を知っているからこそ、個性あるキャッチコピーを生み出すのは難しいものです。

ポイントは「視点をかえてみる」  
「アイデアを深く掘る」。

私たちが出した答えです。

- ・消せぬ。ボールペンは消せぬ。
- ・丸くなったら一人前。
- ・発想は大きく、僕は小さく。
- ・あの子に貸すため専用。
- ・“ぼく” あつての鉛筆。
- ・間違っ、気付くMONO。
- ・がんばれ、受験生。



- ・丸くなくても投げないで。
- ・私消えても、あなたの心は消せません。

プロである先生も驚くキャッチコピーを考えることができました。この“脳トレ”のおかげで、私たちも俄然やる気になりました。

### 2-2 小林市の職員に、そしてキャストに！

磯部先生が来校された日、私たちにとって重大発表がありました。それは、

「これから始まるこの取り組みが、**小林市長公認の新しい課**として発足し、私たちはその『シムシティ課』の職員として所属する」

ということでした。

私たちの先輩方は、「動画」や「歌」の制作に取り組んできました。そして今年は、「私たちが『シムシティ課』のPR動画に出演」することになりました。動画の演出コンテを事前に頂き、イメージを膨らませて撮影に臨みます。

その画面では、シムシティをプレイしていた。		未来の街づくりを 検討しています  遊びではありません。 本気の取り組みです。
市役所の前に課の人々が並び、手にはスマホを掲げている。		
カメラが引くと、市役所をバックに、たくさんの人たちが並び。		それは、 小林市シムシティ課。 (演出コンテの一部)





撮影日は8:00に現場（撮影場所）入りです。現場は「小林市役所」。様々な職種のスタッフさんが、既に忙しそうに準備をされています。撮影日である10月13日は土曜日で庁舎は閉庁日のため、私たちは、別玄関から入り、会議室に用意された「シムシティ課公式ポロシャツ」に着替えます。そして、説明を聞き、撮影に入ります。



初めて入る、市庁舎の応接室。そしてなんと、**市長室に入り、本物の市長の椅子に座って撮影**です。これには思わずテンションが上がりました。急遽、本校の先生方もキャストとして撮影に参加しました。



最終的に完成した「**小林市シムシティ課 イメージムービー**」は、**平成30年10月16日にYouTubeに公開**されました。全世界に向けて、私たちの活動のスタートを宣言しました。

### 2-3 まちづくり検討会の実施

**10月26日（金）** 「まちづくり検討会」と題し、私たちの“ビジネスアイテム”となる、「SIMCITY BUILDIT」について学びます。この日は、株式会社電通から沼田先生に来て頂き、『人の心を動かす魅力的なまちづくり』について、みんなで議論しました。



私たちは“リアルな高校生”で、私たちが考える理想的なまちは「高校生の理想」に過ぎません。街には、様々な方がそこでの生活を営まれており、その様々な方が不満に思うところや、良いと思うポイント、小林市に求めることも様々です。自分以外の違った目線からまちづくりを考えることで、自分には見えなかった悩みや課題が見えてくるのではないかと考え、班ごとに**8つの視点を設けて**、検討に入ることにしました。各班の視点は以下の通りです。

- |                                     |                 |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1班：東京に住む女子高生                        | 5班：小林市の農家       |
| 2班：小林市に住む出産を控えた新婚夫婦                 | 6班：小林市に住む高齢者    |
| 3班：小林市に住む工場経営者                      | 7班：外国人のキャリアウーマン |
| 4班：小林に住むおしゃれな夫婦<br>(外国にあこがれを持っている。) | 8班：小林市に住む高校生    |





早速、その視点に立って「魅力的な小林市」にしていくためのコンセプトを立てます。



コンセプトに沿った街を“見える化”するため、「SIMCITY BUILDIT」にも表現していきましました。道路をつくり、その道路に沿って住宅を配置します。住宅の基礎ができて、住宅をつくるための材料となる鉄骨や木材を生産する工場も作らなければなりません。工場生産された材料を住宅建設地に運ぶと、住宅の建設が再開され、完成します。住宅が完成すると住民（シム）が増加します。住民が徐々に増えると、生活に欠かせないライフラインである電気・水道などが不足するため、発電所や貯水塔を作らなければ、住民（シム）が苦情を言い始め、**住民満足度**が低下していきます。警察や消防も住宅に近い場所に作らなければ、犯罪が発生し始めます。そして、住民が減ることになります。

住民の意見を取り入れ、要望を可能な限り叶えていけば**住民満足度**は上がり、納税額も増えます。





**11月 9日(金)** 2週間をかけて各班が作り上げたコンセプトに沿った理想の街を、互いに発表する「中間発表会」を行いました。この日は、小林市の様々な課の職員の方々が本校に足を運ばれ、「シムシティ課」職員である私たちの考えた理想の街の出来栄を見に来られました。また、この日初めて、エレクトロニック・アーツ株式会社の藤村様も私たちのプロジェクトを見学に見えられました。



(小林市役所職員のみなさん)



(エレクトロニック・アーツ社藤村様)

今回の発表内容は、

- (1) 誰の目線に立って、「魅力ある街」をつくろうとしているのか。
- (2) どういうコンセプトで街をつくるのか。
- (3) ここだけは言いたい、街のこだわりのポイントは何か。
- (4) 実際に作っている「SIMCITY BUILDIT」上の街の紹介。

の4点です。発表準備も、念入りに行いました。なぜなら、私たちが考えている「魅力的な街」「理想の小林市」は、最終発表の際、最もよいアイデアを**現実の小林に再現しよう**とするという、最終目標があるからです。



いよいよ発表です。各班が考えたのコンセプトの一部を紹介します。

#### コンセプトについて

渋谷のような109的なものを  
小林市に。(5884の建設)  
この中にトレンドのお店を取り  
入れる。そんな街をつくる。



#### コンセプトについて

まずは...  
小さい子供がいる親になった気持ちになりまして  
その時に...  
近くに病院がある? 治安はいい? ...と99%の不安が!!!  
そこで...  
そんな不安がなくなるような子育てしやすい街にしたい  
と考えました。





### コンセプトについて

ヨーロッパ風にする為に  
エッフェル塔や大橋、街並は基盤の目と意識。



### コンセプトについて

高校生である今だけでなく、  
将来社会人になっても住み  
続けたいと思う街にしたいと  
考えた。

発表を受け、今度は実際に地方創生課や商工観光課、畜産課などで小林市のまちづくりや市民サービス業務を担っていらっしゃる小林市の職員の方々から、フィードバックを受け、更にブラッシュアップさせます。



職員の方の中には、小林市の姉妹都市である石川県能都町から人材交流で小林にきている方もおられ、市外から見た小林市について、アドバイスをしていただくなど、大変貴重な中間発表となりました。

**11月28日(水)** 12月14日(金)には宮原義久小林市長をはじめ、市の幹部職員の皆さんや市議会議員のみなさん、そして一般市民の皆さんに、まちづくりの提案を行うことが決定しました。そこで、前回の中間発表を受け、各班ともアイデアの深化を図るため、更なる改善点を探りつつ、最終発表となる「まちづくり検討会」に向けて準備を進めました。

普段の自分とは異なる視点で、私たちが生活している小林市を見つめ、考えてみると、様々な発見や課題が見えてきます。特に、「高齢者」の視点で考えている6班は、高校生である私たちでは感じられない「生活のしにくさ」に焦点をあて、以下のような課題から、理想のまちを再検討しました。



- |                  |                |                 |
|------------------|----------------|-----------------|
| ・ 道路が狭い          | ・ 交通が不便        | ・ 店が遠い          |
| ・ 道路がどこどこまで歩むにくい | ・ 交通機関が少ない     | ・ 店が少ない         |
| ・ 歩道が狭い          | ・ バス、電車の本数が少ない | ・ 店が小さい         |
| ・ 道路の段差が多い       | ・ バス、電車までが遠い   | ・ 店に売ってある品物が少ない |

歩道があっても「段差がある」し、そもそも「歩道があるところが少なく、道幅も狭い」、JR小林駅は整備されたものの、「吉都線の利用者が少なく、本数が少ない」など、高齢者は「生活のしにくさ」を感じているに違いありません。





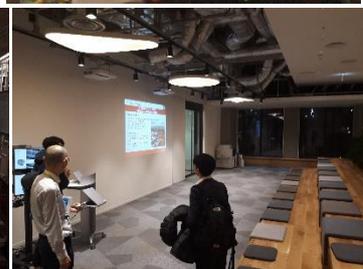
この日の授業の終わり、ビッグニュースが届きました。それは、「私たちはまちづくりを通じて社会に貢献します」をグループ全体の基本使命に掲げている『三菱地所株式会社』で東京現地研修を受講できるというものです。

三菱地所様は、三菱グループの一つとして、日本のみならず海外の主要都市の都市開発などを手がけている大企業です。今回の訪問の目的は、普段、都市計画等の業務を担当されている“まちづくりのプロ”の方々に、「小林市シムシティ課」が考えている小林市の「理想のまち」を見て頂き、アドバイスをもらうことです。

**12月10日(月)** 朝から小林を出発し、一路「東京」に向かいます。お昼過ぎに東京に到着し、まず東京駅に向かい、沼田先生と合流。その後、翌日の意見交換会で行うプレゼンテーションの打ち合わせを行いました。その後、17時に三菱地所様とのミーティングです。12月の東京は日の入りが早く、空は真っ暗。しかし、日本一のビジネス街「東京丸の内」は、どの高層ビルの窓からも赤々と明かりが漏れています。

そんな中、徒歩で三菱地所本社近くの「3×3 Lab Future」という、会社でも自宅でもない第3の場所「サードプレイス」を意味する、業種業態の垣根を越えた交流・活動拠点でミーティング開始です。

意見交換会では、元テレビアナウンサーの方が司会進行をされることや、どのような形で発表をするかの確認、プレゼンの中身を簡単にお伝えし、その内容により詳しい社員の方にお声かけ頂けるとのことでした。打ち合わせ後は、実際に意見交換会を実施する三菱地所本社内のオープンスペースにて、機器の確認などを行い、宿泊先に向かいました。



**12月11日(火)** 三菱地所様との意見交換会当日、東京で朝を迎え、東京のビジネス



スマンと同じく、ビジネス街を歩いてプレゼン会場に向かいます。到着後は「名刺交換」から。オープンスペースのガラス越しの向こう側は、三菱地所の社員の方が利用する「おしゃれな社員食堂」になっていて、私たち高校生を珍しそうに見ています。これまで感じたことのない緊張を感じつつ、本番ギリギリまで二人で打ち合わせを行いました。

開始時刻前になると、通りがかりの社員の方々が足を止め、私たちのプレゼンが始まるのを待っています。

12:00、沼田先生からの本プロジェクトの説明、本校の先生による小林市の概要説明の後、課の代表2名が所属する7班





の「外国人のキャリアウーマン」の視点で考える理想の街についてプレゼンしました。外国人のキャリアウーマンの視点から更にターゲットを『日本で別荘を探している富裕層の外国人』に絞り込み、第二の生活拠点（別荘地）として選ばれる小林市はどんな街であるかを考えました。その街のコンセプトは『都会と田舎が共存する街』。都会の一部を“緑化”するのではなく、一つの街に都会と田舎を共存させ、「都会の便利さ」と「田舎の癒し」を、イメージとして橋でつなぐことを発表しました。



コンセプトの街と現在の小林市を比較した際、現在の小林市には「外国語表記が少ないことで、外国人を受け入れる体制が整っていないのではないか」と感じ、外国人から見たときに「歓迎されていないのでは?!」と誤解されてしまうと考えたことを説明しました。その上で対策として、本校生徒が中心となって約500人弱の小林市在住外国人にヒアリングを行いながら、外国人向けのガイドマップの制作を行い、市内の主要施設に設置して試してみることを考えていることを伝えました。

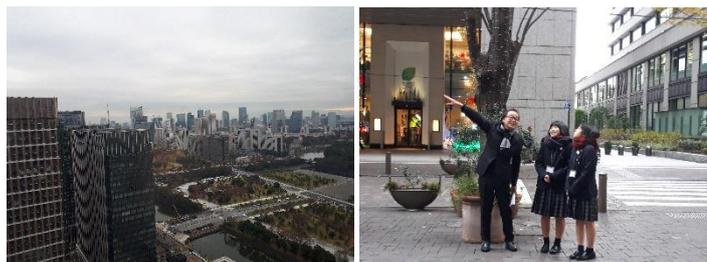
私たちのプレゼンを見ていた三菱地所の社員の方々からも様々な意見を頂きました。

「田舎に住んでいる人たちは、どうしても都会に憧れをもってしまいが、都心から見ると田舎はとても魅力的な場所である。小林市ならではの魅力に外国人は、惹かれて観光に来るはずだから、今小林市が持っているものを発信していくのが良い。例えば、小林市の桜並木は海外の人から見てもすごく魅力的なものになると思う。」

私たち「“田舎”女子高生」の視点と、“都会”で働くビジネスマン。加えて、アドバイスをくださるのは「まちづくりのプロ」です。大変貴重な意見を頂きました。

意見交換会後は、三菱地所が開発された東京のオフィス街「丸の内」を探索しました。高層ビルから東京の街を見渡すと、シムシティの画面を見ているように整備されています。昨年生まれ変わった東京駅や、小林市では見ることのできない高層ビル群。このまちで生活する人の立場に立ったまちづくりが、ここ「丸の内」で実践されていました。

小林市に住む私たち二人にとって、すべてが興味深く刺激的な話で、大変貴重な東京現地研修となりました。





## 2-4 まちづくりタウンミーティングの開催

**12月14日(金)** これまでの私たちの活動は「まちづくり検討会」と銘打ち、学校の教室で行ってきました。そしてこの日は、これまでの取り組みの成果と私たち“シムシティ課の高校生”が考える魅力ある小林のまちづくりについて、宮原義久市長をはじめとする市幹部職員の皆様、議員の皆様、そして市民の皆様にプレゼンテーションを行いました。学校を飛び出し、リニューアルした小林駅“KITTO小林”の2階にある市民交流スペースで実施しました。



発表の内容	タイムスケジュール
<div style="text-align: center;"> <p>① 誰にとって魅力的な街を作ったのか</p> <p>↓</p> <p>② 街のコンセプト</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #3498db; padding: 10px; border-radius: 10px; width: 45%;"> <p>③ SIMCITYで作った理想の街</p> </div> <div style="background-color: #3498db; padding: 10px; border-radius: 10px; width: 45%;"> <p>④ 小林市を理想の街に近づけるための事業アイデア</p> </div> </div>	<p>13:30 開会</p> <p>13:30～13:40 経緯説明(市)</p> <p>13:40～14:20 発表(生徒4班)</p> <p>14:20～14:30 休憩</p> <p>14:30～15:10 発表(生徒4班)</p> <p>15:10～15:25 参加者による投票</p> <p>15:25 優勝チーム発表</p> <p>15:30～15:35 宮原市長講評</p> <p>15:40 閉会</p>

各班の提案内容は以下のとおりです。

班	ターゲット	コンセプト	状況分析と具体的アイデア
1班	東京の女子高生	エンタメが発達した小林市	<p>硫黄山の噴火により、小林市を訪れる観光客が減少している。特にえびの高原に通じる県道1号線が通行止であることから、生駒高原は大打撃を受けている。そこで「映え、増え、栄え作戦」と題し、「映え」を開発し、観光客を「増や」し、街を「栄え」させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●映えスポット”を生駒高原につくる。</li> <li>●生駒高原に“大きな額縁”を設置する。(絶景が絵になる)</li> <li>●バス停をメロンやぶどうなど特産物の“オブジェ”にする。</li> <li>●発電ブランコを作る。</li> </ul>
2班	新婚夫婦	子育てしやすい街	<p>子育てへの不安や悩みを感じても、相談したりする場が小林に不足しているのではないかと考え、子育て世代の交流スポットを作ってみてはどうだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今ある公民館をリノベーションし“全天候型の公園”にする。</li> <li>●こどものため、“絵が描ける壁”の設置。</li> <li>●母親のための“カフェ”の併設。</li> </ul>



			
班	ターゲット	コンセプト	状況分析と具体的アイデア
3班	小林で働く人	働きやすい街	<p>「働きやすい」=『休みやすさ』と考案。仕事帰りに、あるいは休日に癒やしを求め、くつろげる場所を創る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●“足湯カフェ”をつくる。(体を癒やししながら、食事ができる)</li> <li>●足湯の匂いを変えたり、ドクターフィッシュによるイベントを実施し、「明日も頑張ろう」という気持ちにさせる。</li> </ul>
4班	おしゃれな中高年夫婦	自然と気品を兼ね備えた小林市	<p>小林市には芸術に触れたり、季節を感じるができる場所が少ない。そこで、そのような場所を創ってはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●商店街の空き店舗を活用し、ヨーロッパの町並みにあるような“パン屋さん”と“オープンスペース”を配置。</li> <li>●パン作り教室などのイベントも開催。</li> </ul>
5班	小林市の農家	農家のイメージUP	<p>農家に対する「大変そう」「休みがない」などのイメージを払拭し、しっかりと儲けることのできる仕組みをつくる。なかでも、大規模農家と小規模農家の間にいる、“少しだけでも売りたい”農家を応援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生産物を“コミュニティバス”の車内で販売する仕組みをつくる。</li> </ul>
6班	小林市に住む高齢者	高齢者に便利な街	<p>高齢者が「移動することの不安」を持っていることに着目。免許を返納すると移動手段がない。公共交通機関も便数が少ないため、“シニアカー”で移動をする高齢者が多い。結果、事故も多くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●“シニアカー専用レーン”を設置する。</li> </ul>
7班	海外の富裕層	都会と田舎が共存する街	<p>日本の自然は外国人にとって魅力となるはず。しかし、都会の便利さもそこには必要。これまではこちらが「楽しみ方を用意」しておくことが主流だったが、今の時代は「この街には何があるか」を素直に伝え、観光客が「楽しみ方を考える」ように変化してきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外国語対応のガイドブックの作成</li> <li>●SNSによる情報発信も“外国語”に対応させる</li> </ul>
8班	小林市に住む高校生	住み続けたいと思う街	<p>現在、小林市の商店街には活気がない。学校帰りに立ち寄れる場所も限られている。だからこそ、商店街を活気づけたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●空き店舗を活用する。</li> <li>●小さな映画館やe-sportsが楽しめる場所を、空き店舗を利用して設置する。</li> </ul>





**1班：エンタメが発達した小林市**



**2班：子育てしやすい街**



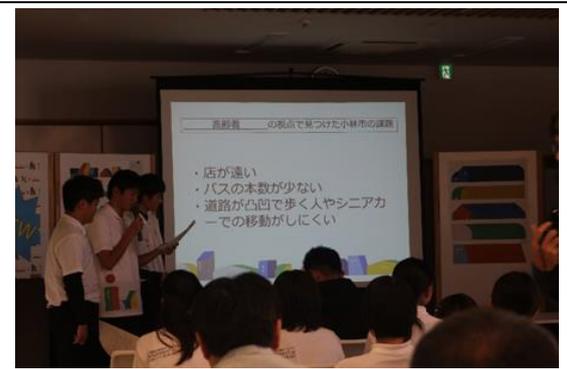
**3班：働きやすい街**



**4班：自然と気品を兼ね備えた小林市**



**5班：農家のイメージUP**



**6班：高齢者に便利な街**



**7班：都会と田舎が共存する街**



**8班：住み続けたいと思う街**

すべてのプレゼンテーションが終了し、私たちを含め、会場にいらっしやる全ての方々に一人一票で投票をしてもらいました。





《集計結果》

※票数は上位3班のみ表示

班	ターゲット	コンセプト	票数
<b>1班</b>	<b>東京の女子高生</b>	<b>エンタメが発達した小林市</b>	<b>13</b>
2班	新婚夫婦	子育てしやすい街	
3班	小林で働く人	働きやすい街	
4班	おしゃれな中高年夫婦	自然と気品を兼ね備えた小林市	
5班	小林市の農家	農家のイメージUP	12
6班	小林市に住む高齢者	高齢者に便利な街	
7班	海外の富裕層	都会と田舎が共存する街	
8班	小林市に住む高校生	住み続けたいと思う街	11

私たち小林秀峰高校の「シムシティ課」職員が31名、会場にいらっしやった方が27名の合計58名でした。集計の結果、**優勝は『1班 エンタメが発達した小林市』に決定**しました。私たちの発表を見て頂いた方の感想を、一部紹介します。

《1班に対して》

- ・映え、増え、栄えの整理がよかった。
- ・取り組み可能な事業。
- ・「映え・増え・栄え」のキャッチが心に残った。
- ・ワクワクする。どれだけの期間、効果があるのか課題。
- ・噴火被害からの復興という着眼点は素晴らしい。

小林市シムシティ課タウンミーティング  
～市長に発表しよう～ 評価記録用紙

各班の発表毎に、評価をお願いいたします。なお、全ての班の発表が終了しましたら、最も良かった班に1票投じて頂く「投票用紙」を別途お配りいたします。

発表順	班名	発表内容	発表姿勢	事業実現度	メモ
1	1班				映え、増え、栄えの整理がすばらしい。リビウー、緑地の緑化がはじけてる。課題は？
2	6班				高齢者が安心して暮らせる街が理想です。
3	2班				シムシティに似ている。リビウーがはじけてきている。リビウーの文化とパースとの関係を考えてほしいです。コンセプトが面白いと感じました。
4	8班				施設とコワーキングに集約するのはいいです。緑化の意識が素晴らしいです。自然の豊かさを活かして、自然と気品を兼ね備えた街が理想です。高齢者に優しい街が理想です。自然と気品を兼ね備えた街が理想です。
5	3班				エコシティのイメージが素晴らしいです。エコシティのイメージが素晴らしいです。エコシティのイメージが素晴らしいです。
6	5班				コワーキングのイメージが素晴らしいです。コワーキングのイメージが素晴らしいです。コワーキングのイメージが素晴らしいです。
7	4班				緑化の意識が素晴らしいです。緑化の意識が素晴らしいです。緑化の意識が素晴らしいです。
8	7班				自然と気品を兼ね備えた街が理想です。自然と気品を兼ね備えた街が理想です。自然と気品を兼ね備えた街が理想です。

審査発表の後、宮原義久小林市長から全体の講評を頂きました。

全ての班で共通して出ている意見として「自然が豊か」とあった。そして、どんな街にしていきたいかという点に関しては「住みやすい街」「働きやすい街」「買い物がしやすい街」「交通の便がいい街」ということが挙げられていた。市として、皆さんの意見は可能な限り実現に向けて取り組んでいきたい。

皆さんには今回、「シムシティ課」の職員として小林について考えていただく中で、小林のいいところも悪いところも見えてきたかと思う。今後は、小林だけでなく、東京や大阪、北海道など日本の他の地域や、海外にも目を向けてもらって、その上で外から見た小林の良さを再度、感じてもらえるといいと思う。

様々な提案をしてもらったが、これらを実現していくためにはお金がかかる。このお金は市民の皆さんが収めている税金である。税金を使って何かをするためには、そこに「政治」が関わっている。みなさんには既に18歳になっている人もいますかと思う。「政治」が良いとか悪いではなく、皆さん一票でこのプロジェクトで取り組んだような“まちづくり”が行われていく。これを機会に是非、「政治」にも関心を持ってほしい。





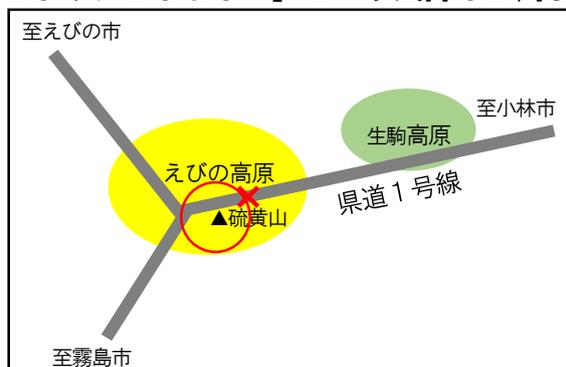
## 2-5 アイデアをカタチに

1班が優勝したということで「**映え・増え・栄え作戦**」を実行していくことになりました。1班は小林市の最も有名な観光地の一つである“生駒高原”を盛り上げるため、インスタ「映え」スポットを設け、観光流入が「増え」るようにし、結果として小林市が「栄え」という提案を行った班です。早速、生駒高原に現地調査に出かけることにしました。

### 4月19日(金)

春晴れの天気にもまれたこの日、新メンバーとなった私たち28名は生駒高原に現地調査に出かけました。平日ではありますが、この天気です(写真参照)。この時期、アイスランドポピーも咲き始めています。ですが、**お客さんの姿はほとんどありません。**

それは、去年の1班のメンバーも言っていました。「えびの高原の硫黄山が2018年4月19日に250年ぶりに噴火し、噴火警戒レベルが引き上げられたことで**えびの高原に通じる県道1号線(小林えびの高原牧園線)が通行止め**になっている」ためです。県道1号線は小林市からえびの高原へ通じる道路で、えびの高原には小林市からの他、えびの市・鹿児島県霧島市からもアクセス可能です(下記図参照)。しかし、県道1号線が通行止めであるため、本来この時期に霧島市やえびの市からえびの高原を訪れ、えびの高原から生駒高原に観光に訪れる人の流れがストップしていることが原因です。正直、「これはなんとかしなければならぬ」という気持ちが高まりました。



× 付近の様子→



← 生駒高原付近の道路標示

生駒高原は「花の駅 生駒高原」として、宮交ホールディングスのグループ企業である宮交ショップアンドレストラン様が運営されています。小林市の観光地ではありますが、ここで何かをするためには、交渉のうえ、許可を頂くことが必要となります。後日、アポイントを取った上で交渉させて頂くことにして、今日はまず、調査を行います。





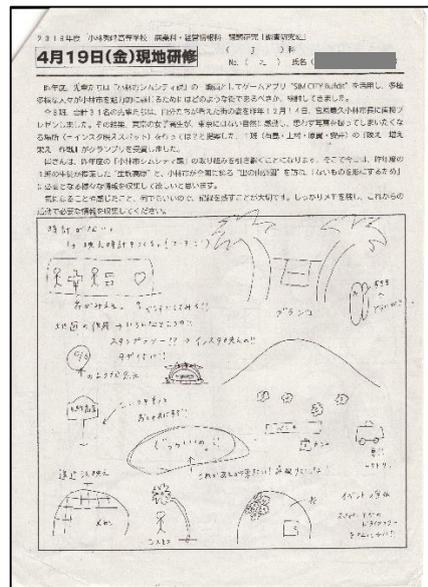
広大な敷地一面にアイランドポピーと菜の花が咲いており、天気の良いのも相まって大変素晴らしい“絶景”を望むことができます。この自然は小林市にとって、大変貴重な地域資源であることが実感できます。

しかし、同時に課題もあります。ほとんどのメンバーが、以下の点を課題としてあげました。

- ・座る場所がない。
- ・時計がない。
- ・移動が大変。
- ・木陰がない。
- ・花畑の奥に進むと、トイレがない。

これらの課題を解決しつつ、私たちは具体的に「インスタ映えスポット」の検討を進めていくことになりました。

また、生駒高原からの帰り、小林のもう一つの有名スポット「出の山公園」にも立ち寄りしました。私たちのように生駒高原からの帰りに立ち寄り方が多いのではないかと考え、伺いました。



出の山池



出の山湧水



出の山の湧水で泳ぐチョウザメ

5月末から6月初旬にかけては『ホテル祭り』が開催され、多くの人で賑わいますが、平日の昼間は生駒同様、観光客はいませんでした。

この日の現地調査で得た情報を持ち帰り、今後の活動に繋がります。

### 5月10日(金)～6月7日(金)

今年のメンバーは7班に分かれています。各班、実際に現地を見たことで具体的なアイデアが生まれます。そして、アイデアをカタチに仕上げていきます。

① 「移動に使えるトロッコ」

5 班 今までにないもの

冬と夏に訪水人数が少ない	モノマネゴキアよりかきごみを使用している	体験
キャンプ場に5割	園内に給水できる所がない	映元
土産に沢山の土産を扱っている	時計がない	小林市で有名な土産を売りたい

② スタンプラリー 尾根→

生駒高原の回

③ 「道に沿う鉄琴」

① 映えるジュースしぼり

水何処か設置予定

③ 星が映り分けるキャンプ場





そんな中、5月31日金曜日、生駒高原を訪問しました。私たちメンバーを代表し2名でこれまでのシムシティ課の活動報告と現在の活動状況について説明。その後、最終的には生駒高原を更に活性化するために、私たちのプランを是非実行させて欲しいことを訴えました。ご対応頂いた宮交ショッピングアンドレストラン「花の駅生駒高原」の統括店長光森様と同副店長の廣澤様からは、



「(硫黄山の)噴火の影響で、かなり客足が遠のい

ている状況。高校生であるみなさんがここ(生駒高原)を活性化し、地元に貢献したいという思いは大変嬉しい。是非、連携して取り組みましょう。」

と言って頂き、交渉は成立。**生駒高原の大地に、アイデアを描く**ことが実現できることになりました。私たちのアイデアがカタチになる日が近づいてきました。

### 第3章 検証と課題

私たち「小林市シムシティ課」の活動はまだまだ道半ばですが、これまでの活動の検証を仮説に照らし合わせて行ってみました。

仮説1	仮説2
<p>まちづくりについて、ゲームを用いて検討することで、視覚化が可能となり、まちづくりを親しみやすいものとして感じてもらえるようになるのではないかと。</p>	<p>これまでにない産学官連携に取り組むことで、パブリシティ効果を生み、新たな価値の創造につなげることができるのではないかと。</p>

私たち「小林市シムシティ課」の活動は、まちづくりシミュレーションゲーム「SIMCITY BUILDIT」を用いて、実際のまちづくりの検討を行ってきたところにその話題性があります。活動の中では、課内における「中間発表(11月)」、三菱地所様での「意見交換会(12月)」、そして「まちづくりタウンミーティング(12月)」の計3回、各班が検討を重ね、生み出したアイデアをプレゼンする場がありました。その際、**各班のアイデアを「SIMCITY BUILDIT」上に表現し“視覚化”することで、大変分かりやすく訴求効果があった**ことは間違いありません。実際に、「まちづくりタウンミーティング」に参加された小林市議会議員の方は「高校生が考えるアイデアを、聞くだけではなかなか分かりづらいところがあるが、スマートフォン上に街のイメージが出ていることで理解しやすかった」とのご意見を頂きました。

**仮説1**の「視覚化が可能となり」一定の効果があったと考えられます。

しかし、どれだけの方にまちづくりについて「親しみ」を感じてもらえたかは未知数であり、検証することができませんでした。



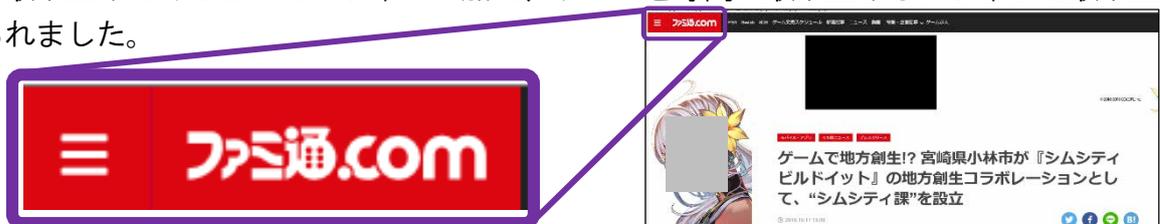


次に**仮説2**について、まずはパブリシティ効果について分析してみました。まずはWeb上での反応です。Webでの掲載結果と広告換算値を一覧にまとめた資料を小林市からご提供頂きました。これは資料の一部であり、各メディアの広告換算値は公表できませんが、「小林市シムシティ課」発足時のパブリシティだけでも広告費換算で約1,800万円近くの効果があったことが証明されています。

掲載日	報告日	媒体名	記事タイトル	URL	広告換算値
PRタイトル 宮崎県小林市が人気ゲームとコラボし、「シムシティ課」を設立！					¥17,781,561
報告記事数 179					
2018/10/17	2018/10/24	ニコニコニュース	ゲームで地方創生!? 宮崎県小林市が『シムシティビルドイット』の地方創生コラボレーションとして	https://news.nicovideo.jp/watch/nw4036750	111
2018/10/17	2018/10/24	ハッカドール	ゲームで地方創生!? 宮崎県小林市が『シムシティビルドイット』の地方創生コラボレーションとして	https://web.hackadoll.com/n/8nyvz	97
2018/10/17	2018/10/24	5NEWS	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	http://c.googukip/5c0news/newsdetail/469712	21
2018/10/17	2018/10/24	dメニュー	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	http://topics.smt.docomo.ne.jp/article/mantan/entert	89
2018/10/17	2018/10/24	NEWS Collect	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://newscollect.jp/article?id=4252685094198160	91
2018/10/17	2018/10/24	nor	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://this.kijiji/425268509419816093	25
2018/10/17	2018/10/24	So-netニュース	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://news.so-net.ne.jp/article/detail/1656671/	04
2018/10/17	2018/10/24	トピックプラス	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	http://topicplus.info/news/index.php?id=4252685094	96
2018/10/17	2018/10/24	ハッカドール	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://web.hackadoll.com/n/8nyvz	97
2018/10/17	2018/10/24	カゾオ	人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://web.kamei.io/article/1724462759647592301	98
2018/10/17	2018/10/24	ニュースサイト「毎日新聞」	人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	http://mainichi.jp/articles/20181017/dyc/00m/200/0	23
2018/10/17	2018/10/24	ニコニコニュース	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』のコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://news.nicovideo.jp/watch/nw4036419	111
2018/10/17	2018/10/24	産経新聞ONLINE	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』のコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://www.ehime-np.co.jp/article/201810170028	91
2018/10/17	2018/10/24	au Webポータルコミュニティ	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://article.auone.jp/detail/1/1/1/20_9_20181017	96
2018/10/17	2018/10/24	dメニュー	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	http://topics.smt.docomo.ne.jp/article/oricon/enterta	89
2018/10/17	2018/10/24	GREE ニュース	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	http://jp.news.gree.net/news/entry/3015202	69
2018/10/17	2018/10/24	福井新聞	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	http://mainichi.jp/articles/20181017/orc/00m/200/0	23
2018/10/17	2018/10/24	FM AICHI	宮崎・小林市『シムシティ』とコラボ	https://www.fukushima-bun.co.jp/articles/-/720832	70
2018/10/17	2018/10/24	KKB鹿児島放送	宮崎・小林市『シムシティ』とコラボ	http://fma.co.jp/news/?newsid=2121640&c=30	47
2018/10/17	2018/10/24	OHK岡山放送	宮崎・小林市『シムシティ』とコラボ	http://www.kkb.co.jp/oricon_style/oricon_style_detail	25
2018/10/17	2018/10/24	ZIP-FM77.8	宮崎・小林市『シムシティ』とコラボ	http://www.ohk.co.jp/entame/news.php?ID=2121640	34
2018/10/17	2018/10/24	メーテレ	宮崎・小林市『シムシティ』とコラボ	http://zip-fm.co.jp/oricon/2121640.asp	16
2018/10/17	2018/10/24	日本テレビ名産	宮崎・小林市『シムシティ』とコラボ	https://www.nagoya.oricon.net/seinuhtml/?c=18id	34
2018/10/17	2018/10/24	カゾオ	宮崎県小林市が『シムシティ課』を設立。『シムシティビルドイット』を遊んで若い世代にまちづくりを	https://web.kamei.io/article/1724290896924200101	97
2018/10/17	2018/10/24	ハッカドール	宮崎県小林市が『シムシティ課』を設立。『シムシティビルドイット』を遊んで若い世代にまちづくりを	https://web.hackadoll.com/n/8nyvz	97
2018/10/17	2018/10/24	LINE NEWS	宮崎県小林市が『シムシティ課』を設立！ 『シムシティビルドイット』を遊んで高校生とのまちづくり	http://news.line.me/articles/oa-rp83769/0f1b83919	111
2018/10/17	2018/10/24	ニコニコニュース	宮崎県小林市が『シムシティ課』を設立！ 『シムシティビルドイット』を遊んで高校生とのまちづくり	https://news.nicovideo.jp/watch/nw4037274	111
2018/10/17	2018/10/24	Love TechMedia	宮崎県小林市が『シムシティ課』を設立！ ゲームと自治体の夢の地方創生コラボレーションが実現	https://lovetech-media.com/news/social/20181017	96
2018/10/17	2018/10/24	わげんweb	宮崎県小林市が人気ゲームとコラボし、「シムシティ課」を設立！	http://waegenise.jp/msk/57136/	96
2018/10/17	2018/10/24	ねとらび	市長、朗読です！ 宮崎県小林市が『シムシティ課』を新設。『シムシティビルドイット』を遊んで	https://netnavi.appcard.jp/e/6ojMk3d	96
2018/10/17	2018/10/24	ニコニコニュース	市長、朗読です！ 宮崎県小林市が『シムシティ課』を新設。『シムシティビルドイット』を遊んで	https://news.nicovideo.jp/watch/nw4037785	111
2018/10/17	2018/10/24	ハッカドール	市長、朗読です！ 宮崎県小林市が『シムシティ課』を新設。『シムシティビルドイット』を遊んで	https://web.hackadoll.com/n/8nyvz	97
2018/10/17	2018/10/18	JNews	ゲームで地方創生!? 宮崎県小林市が『シムシティビルドイット』の地方創生コラボレーションとして	https://jnews.tokyo/article/1269009/29	91
2018/10/17	2018/10/18	カゾオ	ゲームで地方創生!? 宮崎県小林市が『シムシティビルドイット』の地方創生コラボレーションとして	https://web.kamei.io/article/17242224361204490101	98
2018/10/17	2018/10/18	ファミ通.com	ゲームで地方創生!? 宮崎県小林市が『シムシティビルドイット』の地方創生コラボレーションとして	https://www.famitsu.com/news/20181017/1659898.htm	118
2018/10/17	2018/10/18	ニコニコニュース	ゲームで地方創生!? 宮崎県小林市が『シムシティビルドイット』の地方創生コラボレーションとして	https://news.nicovideo.jp/watch/nw4036750/news_re	111
2018/10/17	2018/10/18	LINEニュース	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://ch-news.line-apps.com/articles/oa-mantan	108
2018/10/17	2018/10/18	MANTANWEB	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://mantan-web.jp/article/2018101700e0m0000	108
2018/10/17	2018/10/18	マイナビニュース	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://news.mynavi.jp/article/20181017-7086557	446
2018/10/17	2018/10/18	スポーツキャスト	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	http://sports.mocast.jp/news/entertainment/515688	574
2018/10/17	2018/10/18	goo ニュース	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立(MANTANWEB)	https://news.goo.ne.jp/article/mantan/entertainment	332
2018/10/17	2018/10/18	eo	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立あなたにオススメ	https://eotopics.smt.docomo.ne.jp/mantan/425268509419	803
2018/10/17	2018/10/18	dメニュー	シムシティ人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立(MANTANWEB) 人気入	https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/mantan/entert	89
2018/10/17	2018/10/18	毎日新聞	人気ゲームが宮崎県小林市とコラボ 『シムシティ課』設立	https://mainichi.jp/articles/20181017/dyc/00m/200/0	23
2018/10/17	2018/10/18	373news.com	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』のコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://373news.com/news/oricon/ajiji.php?id=21216	92
2018/10/17	2018/10/18	Ameba News	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』のコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://news.ameba.jp/entry/20181017-586f/	966
2018/10/17	2018/10/18	千葉日報	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』のコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://www.chibanippo.co.jp/life/oricon/540018	959
2018/10/17	2018/10/18	上毛新聞ニュース	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』のコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://www.jpmo-news.co.jp/life/oricon/86343	554
2018/10/17	2018/10/18	MSNニュース	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://www.msn.com/ja-jp/news/national/KE5K6EX	319
2018/10/17	2018/10/18	ザソニー	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://www.aera.co.jp/articles/entame/?i=2121640&p=	319
2018/10/17	2018/10/18	AGARA総研民報	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://news.biglobe.ne.jp/entertainment/1017/ori_18	116
2018/10/17	2018/10/18	BIGLOBEニュース	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://news.biglobe.ne.jp/entertainment/1017/ori_18	39
2018/10/17	2018/10/18	CLUB Panasonic	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://club.panasonic.jp/oricon/news/detail/?i=212	94
2018/10/17	2018/10/18	Feljal	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://mall.373news.com/news/feljal/oricon_news=21216	94
2018/10/17	2018/10/18	FM NACK5	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://www.nack5.co.jp/oricon_2121640.shtml	48
2018/10/17	2018/10/18	GREE	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	http://jp.news.gree.net/news/entry/3015202?from_gm	769
2018/10/17	2018/10/18	Infoseekニュース	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://news.infoseek.co.jp/article/oricon_2121640/	380
2018/10/17	2018/10/18	livedoor	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	https://news.livedoor.com/article/detail/15456934/	372
2018/10/17	2018/10/18	mixiニュース	宮崎・小林市、ゲーム『シムシティ』を活用したコラボ部設置 地方創生プロジェクトで高校の授業に	http://news.mixi.jp/view/news?pid=5335087&media	20

メディアごとの数値は公表できません。

そして何より、今回「ゲーム」であったことにより、これまでの小林市や本校の取り組みを取り上げてくださったメディアに加え、ゲームを専門に取り上げるメディアで取り上げられました。



特に上記に提示した「ファミ通.com」さんは、三菱地所様での「意見交換会」の際と、小林市で開催した「まちづくりタウンミーティング」にも取材にお越し頂き、私たちの活動に大変興味を持って頂きました。





Webだけでなく、テレビ宮崎のニュースやBTVケーブルテレビにも取り上げていただきました。



また、「ソーシャル&エコマガジン“ソトコト”」（月刊誌）が、小林市の取り組みを記事に取り上げてくださるとのことで、本校にも取材に来て頂きました。これまでの本校と小林市の連携をまとめて、見開き3ページの記事にしてくださいました。（左参照）

時事通信社が全国の学校や教育関係者に向けて発行している「内外教育」（毎週2回火・

金曜日発行）や、平成31年10月31日付の朝日新聞にも取り上げられるなど、昨年度までの活動と同じように、多数のメディアに露出することができました。

そして何より、「小林市シムシティ課」の活動が全国初の取り組みということ、その中でも学校の授業で「ゲーム」が教材の一つとして活用されているということにフォーカスを当て、記事にして頂いたメディアも多数ありました。

以上のことから、仮説の検証を行った結果は、以下の通りです。

### 仮説1

△

まちづくりについて、ゲームを用いて検討することで、視覚化が可能となり、まちづくりを親しみやすいものとして感じてもらえるようになるのではないかと。

### 仮説2

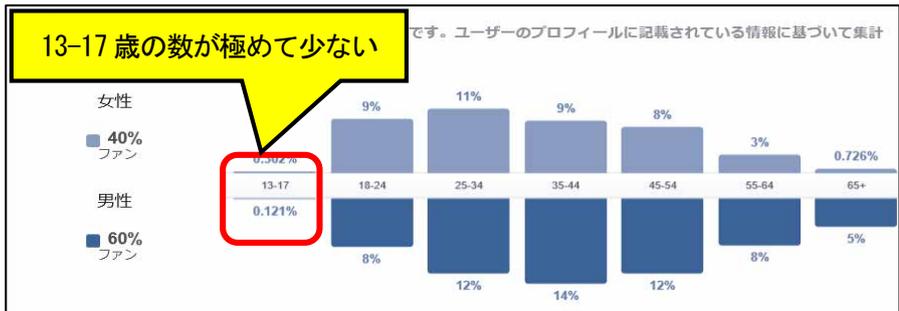
◎

これまでになかった産学官連携に取り組むことで、パブリシティ効果を生み、新たな価値の創造につなげることができるとはならないか。

課題として「小林市シムシティ課」としての活動が現在進行中であるため、市民をはじめとする小林市の“関係人口”の方々に評価して頂くには、まだまだ時間が必要だということが挙げられます。

今後は、フォロワー数が1,700人を突破した本校 Facebookに加え、若者ユーザー数の多い“Instagram”の開設などを視野に

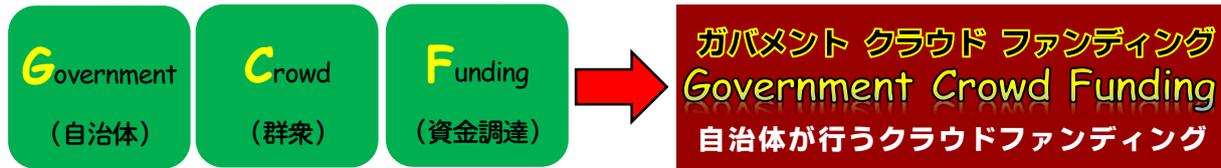
入れ、より工夫しながら多くの人に向けて情報発信をし続けることが必要です。





## 第4章 今後の展望

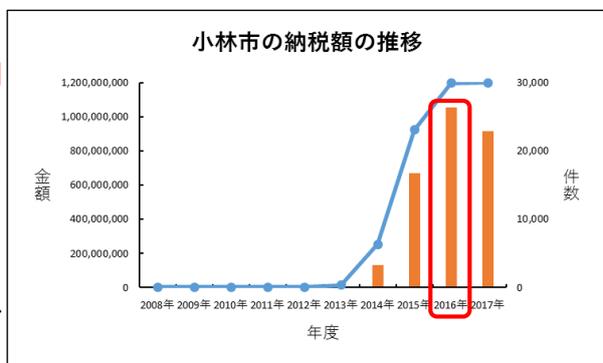
私たちが「小林市シムシティ課」のアイデアをカタチにするために、避けては通れないのが“**資金をどのように集める（出資を募る）か**”です。宮原市長がおっしゃっていたように、地方自治体が住民のために行う各種サービスは基本的に全て「税金」で賄われています。「税金」で私たちの活動を続けていくためには、市議会での審議が必要となるなどハードルが高いようです。そこで、地方創生課の深見様に相談し、資金の回収方法については以下の方法を取ることとなりました。



**ガバメントクラウドファンディング**とは、自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄付金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄附を募る仕組みです。

(<https://www.furusato-tax.jp/>「ふるさとチョイス」HPより)

小林市では2008（平成20）年度にふるさと納税制度を導入し、初年度は全国から



64件、約400万円の寄附を受け入れました。その後、「ンダモシタン小林」や本校が企画・制作に携わった「山奥篇」「サバイバル下校」「田舎女子高生（※PRミュージック）」などのPRが功を奏し、**2016（平成28）年度には29,930件、約10億8千万円の寄附**が全国から寄せられました。更に、返礼品としては全国で唯一「子牛の命名権」を準備。5月31日（金）にはフジテレビ「とくダネ!」、6月1日（土）には「めざましどようび」で紹介されるなど、大きな反響を呼んでいます。

このようなノウハウも活かしつつ、「小林シムシティ課」が進めているプロジェクトでは、自治体が行う**ふるさとの納税制度を活用したクラウドファンディング**、略して**GCFを実施することが決定**しました。

6月14日（金）早速、に株式会社トラストバンクふるさとチョイス事業本部の増山様にお越し頂き、ガバメントクラウドファンディングについて学習しました。

クラウドファンディングを行うには“プロジェクトオーナー”が必要であること、人を行動させるには、興味を持ってもらうこと、そして何より**共感が得られる**ことが最も必要であるということでした。



私たちは“プロジェクトオーナー”として、インターネット上で資金提供を呼びかけていかなければなりません。その際、ただ単に「お金を出してください!」では、絶対に資金を集めることはできません。寄附者は、プロジェクトの





内容に共感し、その結果『じぶんごと』として捉えたときに、初めて寄附という行動に移すこととなります。共感を呼ぶためには、次の3つが必要です。

1. 誰のために、何を（課題）、どうやって解決するか
2. 主体的な実行者（組織）
3. 広める・共感をつなげる

この3つの点について、今後残された期間しっかりと向き合い、検討を重ね、

7月25日木曜日

ふるさとチョイス様のWebサイトにおいて

「小林市シムシティ課」GCFを開始します。

## 第5章 終わりに

現在3年生である**私たちは本校第10期生**です。現在、私たちが「シムシティ課」の職員の一員として活動することができるのは、これまで「課題研究調査研究班」として活動されてきた**先輩方のおかげ**であり、そして多くの“**関係人口**”の皆さんから活動を応援して頂いているからです。



今年3月に卒業した「課題研究調査研究班」31名のメンバーのうち、地元に残っている先輩は4人。**メンバーのうち約9割は地元を離れ**、新たな場所に生活の拠点を移して新生活を送っています。**小林市には大学・短期大学はありません**。専門学校は数年前によりやく1校設置されました。働く場所も限られています。このような現状を目の当たりにしたとき、**地元を離れたたくなくても離れなければならない状況**が今の小林市にはあります。

地元を離れても、地元に対する思いはなくなることはありません。その思いをカタチにできる制度として「ふるさと納税」制度は生まれました。昨今、納税額に対する返礼品の金額（返礼割合）や地場産品以外を返礼品として提供していることについて、総務省から指摘があり、**今年6月から「ふるさと納税」を活用できなくなった自治体が4団体、「ふるさと納税」を活用できる期間について4ヶ月という指定を受けた自治体も43団体**あります。過熱する「ふるさと納税」の競争合戦ではありますが、それだけ、**地方の自治体は人口減少から派生する諸問題（労働人口減少、税収減、地域産業の衰退、空き家・空き店舗の増加など）に悩み、多くの課題を解決しなければならないからこそ、すぎる思いで「ふるさと納税」に取り組んできたのではないのでしょうか。**





そしてなにより、全国で突如発生する自然災害。私たちが暮らす小林市も例外ではありません。霧島連山の噴火活動、台風や大雨、そして地震。これらの天変地異は誰も止めることはできません。だからこそ、「どう向き合っていくか」を常に考えておくことが必要となります。

今回、私たちは霧島連山の硫黄山噴火に伴う「県道1号線」通行止めの影響を大きく受けている『生駒高原』にスポットを当て、昭和38年の開園当時のような賑わいを復活させるため、現代に数多く存在する様々な手段を集結する形でプロジェクトを進めていこうとしています。

## 「大地に絵を描く」

この言葉は、生駒高原を開発・開園した、宮崎交通グループの創業者 故岩切章太郎氏が掲げた理念です。その思いを、今を生きる私たちが引き継ぎ、『小林市シムシティ課』の職員として、地域の情報発信、地域の観光振興、地域の経済の発展につとめていきたいと思えます。

## 活動が共感を生み 共感から行動が生まれる

今年度も多くの“関係人口”の皆様にご支援いただき、大変充実した活動を行うことができました。心より感謝申し上げます。



2019年6月

宮崎県立小林秀峰高等学校 商業科・経営情報科

課題研究「調査研究班」





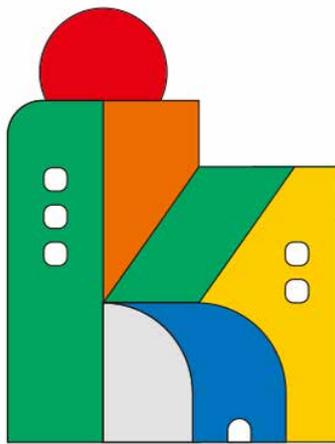
## 私たちの活動にご協力頂いた方々（順不同／敬称略） ※平成30年度

藤村活子／シニアマーケティングマネージャー（エレクトロニック・アーツ株式会社）  
 鈴木瑛／クリエイティブ・ディレクター（株式会社電通）  
 磯部建多／コピーライター（株式会社電通）  
 沼田晃佑／コピーライター（株式会社電通）  
 小柳祐介／アートディレクター（株式会社電通）  
 中村まこ／グローバルアカウント部（株式会社電通）  
 佐藤佑紀／コンサルタント（株式会社電通パブリックリレーションズ）  
 加藤卓／プランニング&コンサルティング（株式会社電通パブリックリレーションズ）  
 加藤慧（株式会社テー・オー・ダブリュー）  
 遠山貴一／代表取締役（株式会社ハナビヤ）  
 温水香南／プランナー（株式会社ハナビヤ・ラボ）  
 村上孝憲／エリアマネジメント推進室・一級建築士・再開発プランナー（三菱地所株式会社）  
 田口真司／エリアマネジメント推進室（三菱地所株式会社）  
 長井頼寛／環境・CSR推進部（三菱地所株式会社）  
 中嶋美年子／エリアマネジメント推進室リガール担当（三菱地所株式会社）  
 井上航太／エリアマネジメント推進室（三菱地所株式会社）※宮崎県からの出向  
 増山友寛／ふるさとチョイス事業本部（株式会社トラストバンク）  
 光森武志／花の駅生駒高原総括店長（宮交ショップアンドレストラン株式会社）  
 廣澤和洋／花の駅生駒高原副店長（宮交ショップアンドレストラン株式会社）  
 宮原義久／小林市長  
 安楽究（小林市役所）  
 深見順一（小林市役所）  
 柚木脇大輔（小林市役所）  
 吉丸典宏（小林市役所）  
 他 UMKテレビ宮崎・朝日新聞社・株式会社Gzブレイン・株式会社木楽社・時事通信社

## 参考資料

小林市観光動向実態調査報告書～平成30年度版～（小林市）  
 2018（平成30）年度版小林市統計書（小林市）  
 図解実践マーケティング戦略（日本能率協会マネジメントセンター）  
 教育ネットひむか「みやざきひむか学」（<http://www.miyazaki-c.ed.jp/himukagaku/>）  
 てなんど小林プロジェクト（<http://www.tenandoproject.com/>）  
 まちづくり情報サイト「まちげんき」（<https://www.machigenki.go.jp/>）  
 ふるさとチョイス（<https://www.furusato-tax.jp/>）





# 福知山公立大学 2019 地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」募集要項

●趣旨：本学の位置する北近畿エリアをはじめ、日本全国の地方都市・農山漁村は何処も少子高齢化や地域経済の活力低下という問題に直面しているが、これら諸課題に対する解決策の一つとして「田舎」の持つ内発的発展力が注目されている。そこで「田舎力甲子園」と題して全国の高校生から地域活性化策のアイデアを募集し、優秀策を表彰することによって、広く啓発・普及を行う。

●主催：福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会 ●後援：内閣府地方創生推進事務局・京都府・福知山市

●対象：全国の高校生（個人・グループいずれも可）等

●様式：論文・企画書・動画・アニメ等いずれも可、字数・枚数・分量も自由 ●言語：日本語もしくは英語

●表彰：最優秀賞 1組に賞状と副賞（旅行券または図書カード6万円分）  
優 秀 賞 1組に賞状と副賞（旅行券または図書カード3万円分）  
佳 作 若干組に賞状と副賞（旅行券または図書カード1万円）  
奨 励 賞 若干組に賞状

●応募締切：2019年6月21日（金） ●結果発表：2019年7月5日（金） ●表彰式：2019年7月20日（土）

●審査基準：1.適合性 若い感性を活かした「ニッポンの田舎を元気にする」内容であること。  
2.新規性 単なる事例紹介や既に発表された内容ではなく、一つ以上オリジナリティが認められること。  
3.論理性 問題意識・論理展開・結論に無理や事実誤認がないこと。  
4.現実性 夢物語を描くだけでなく、経済面等での説得力も持ち得るリアリティの高い内容であること。  
5.表現力 各言語・画像・映像・音声等それぞれ適正な使い方と効果的に表現されていること。

●実行委員：◎は委員長 ☆は副委員長 括弧内は（職名：専門分野）

井口和起◎（福知山公立大学 学長：歴史学）

塩見直紀☆（半農半X研究所代表・本学准教授：ローカルデザイン） 中尾誠二☆（本学教授：農村振興）

富野暉一郎（副学長：地方自治） 平野真（地域経営学部長：国際経営）

矢口芳生（地域経営学科長：農業経済） 芦田信之（医療福祉経営学科長：遠隔医療）

岡本悦司（教授：地域医学） 垣内康宏（教授：健康科学） 神谷達夫（教授：メディア情報工学）

倉本到（教授：情報人間工学） 齋藤達弘（教授：ファイナンス） 渋谷節子（教授：文化人類学）

鄭年皓（教授：経営科学） 谷口知弘（教授：コミュニティデザイン） 山田篤（教授：情報処理）

井上直樹（准教授：パブリックガバナンス） 大谷杏（准教授：生涯学習）

加藤好雄（准教授：マーケティング） 佐藤恵（准教授：医療情報） 杉岡秀紀（准教授：公共政策）

星雅丈（准教授：地域医療福祉政策） 三好ゆう（准教授：地方財政） 前田一貴（講師：応用数学）

江上直樹（助教：教育行政） 佐藤充（助教：地域産業） 張明軍（助教：インバウンド観光）

●応募方法：タイトル・学校名・学科名・学年・氏名（複数人の場合は代表者を筆頭に全員分）・フリガナ・電話番号を明記し、原則として電子メール添付ファイル等で提出。止むを得ない場合のみ郵送（返却希望の際は明記）。

●注意事項：他コンテスト等での過去受賞策につきましては無効となります。

応募内容は結果発表後に本学ホームページ等で公開する可能性があることを予めご了解ください。

表彰式は本学にて開催しますが、詳細は受賞者へ追って連絡します。

《ご応募・お問い合わせ先》 〒620-0886 京都府福知山市堀3370 福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会

Tel: 0773-24-7100 Fax: 0773-24-7170 Mail: inakaryoku@fukuchiyama.ac.jp